

4113 地球のかおり：「威風堂々」(産経新聞) 心模様

連想、スカイブルーを背に、浮かび上がる、威風堂々の
国会議事堂？ 少し無理のある発想かも・・・
頂上の鋭角、断崖絶壁、イタリア側からの、マッターホルン、4478m。
日本なら、山は富士、3776m。欧州大陸は、マッターホルン。
両山とも、憧れの対象。眺めているだけで、
心底から、元気と勇気が湧いてくる。

十年余の、鎌倉禅寺での座住。
境内の国宝・洪鐘（おおがね）のある高台から、
富士山が、くっきり見える。
何度も、何度も、何度も、元気づけられた。
日本の富士山は、107カ所のスイートスポットがある。
季節や時間帯によって、その勇姿は変わる。
魅せられて、富士山の周りを、何往復もしたものだ。
富士山は、見あきることがない。

日本の象徴である富士山。
新幹線から見える冬の富士山は、今もご対面できる、スイートスポット。
親父殿の記録にも、富士山は、再三登場する。
京都生まれの京育ちの人間には、富士山は、憧れの対象。
今も、通り過ぎる、一瞬の勇姿に、元気づけられる。
憧れは、頂上への登山にもなった。おはちまわり、測候所。
初登頂は、夢挑戦を開始した、50歳。単身、九月下旬だった。
3776メートル。1000メートルごとに、状況は変わる。

一度は、登頂の経験、実感。
私には、遠目、眺めて想像を楽しむ方が、想像も膨らむ。
今一つの憧れが、眼前の欧州大陸、マッターホルン、4478メートル。

憧れの実現。最初は、夏の訪問。

その地に、身を置くだけで、感動、感激。

定番のスイス側に滞在して、夏にも、冬にも、訪ねた。

夏、何日も、歩き回った。真っ黒になった。

草花も素敵、何よりも空気が美味しい。

その後、富士山と同じように、再訪して、周遊を試みた。

欧州大陸のマッターホルン、

日本の富士山とは、立地も状況も違う。

3776m、4478m、この 1000m の標高差が面白い。

マッターホルンは、スイスアルプスの一つ。

もっと高い山が、いっぱいある。

富士山は、5合目から、噴火した石が、ゴロゴロ。

雲海や遠望は、素晴らしい。

季節にもよるが、マッターホルンは、エーデルワイズはじめ、

草花もいっぱい、放牧もされているので、

動物たちとの出会いもある。

威風堂々のマッターホルンは、スイスアルプス。

いや、ヨーロッパアルプスの一つに過ぎない。

世界中から、人が訪ねるのが理解できる。

遠目の景観も素敵だが、ハイキングや、トレッキングも楽しい。

現場を歩く。眺めもいろいろ。

山々の、見目うるわしい、眺めが、時間と光で、刻々と変わる。

何度訪ねても、終わりのない魅力。

つねに、新しい発見がある。

日本からは遠い。いろいろ制約される。

地元に住んでいれば・・・

住人と旅人、旅人の視線だからこそ、せつなの出会いだから、

その憧れも、思いもひとしお、心に残るのかもしれない。

日本人の美意識もある。

最初の夏の訪問、雲やガス、天候が、邪魔をして、
勇姿が、すっきりとは、見られなかった。
何日も試み、チャレンジした。そして、日本人の目線。
雲のかかり方が面白い。違った風情が見られた。
ともかく、感動、感激の一言。心を奪われた。
再訪を、強く、心に誓った。

反面、すっきりと見られないから、思いがつのる側面もある。
夏に今一度、冬のマッターホルンも訪ねた。
その思い、心に、ずっと、ひっかかる衝動、
その思い、衝動が、夢実現に、手を貸してくれた。
勇姿を、フィルムスケッチ。心の中だけでなく、作品に、残せた。

その思いは、マッターホルンの登山基地・ツェルマットの街からの眺めだけではない。
谷をはさんだ、アレッチ氷河地域から見る、マッターホルン、
どんな風に見えるのだろう。すべてを見てみたい。
憧れは、エスカレートして行った。さらに、その勇姿を作品に残したい。
登山口から、マッターホルンに登ったのでは、雄姿は見られない。

地図上で、マッターホルンの見られる場所を探し、
地元の人にも尋ね、情報も入手した。
早朝のマッターホルン、夕焼けのマッターホルン、
見上げるのではなく、水平から見る、夕暮れの、マッターホルン。
何度見ても、見飽きない。
マッターホルンの見える、ホテルや山小屋にも、宿泊した。

真正面に、見られる山にも登った。
好奇心、探究心と言うより、その魅力は、言葉では表現できない。
勇気付けてくれるというか、人生最高の時、
力が、湧いてくる。マッターホルンに惚れた。
そんな心境にあった。

反対側は、どうなっているのだろう。

ぜひ、見てみたい。作品に、残せるものなら、残したい。

その思いが、だんだん、強くなってきた。

登山できる、能力も、実力もない。しかし、なんとか、見てみたい。

憧れは、強くなって行った。トレーニングもした。

念ずれば、通じる。機会が、訪れた。

しかも、夏ではなく、くっきりと見られる、冬が所望だった。

当町ではない。雄姿を見たいため、イタリア側からの、アクセスも試みた。

訪ねる時も変えての訪問、何度も試みた。

ことごとく、天候に阻まれた。

下界では、好天気であっても、1000m ごとに、

温度も景観も光も、変化する。

こうなれば、意地でもと、何度もチャレンジした。

またまた脱線。移動は、荷物もあることから、レンタカー。

イタリア側のアオスタに宿泊。

前もって予約すれば、登山口で、宿泊可能。

訪ねたが、満室だった。天候も、味方してくれなかった。

しかし、一度は見てみたい。

そんな思いを、ずっと抱いていた。スイス側は、好天気。

天気予報も、2～3日、好天気の予報。

フランス・シャモニーに、アルプスを抜ける、トンネルが出来ていた。

もしかしたら、見られるかもしれない。車を飛ばした。

チケットブースのおじさんから、地図も、もらった。

質問もしたので、顔見知りになった。

1～2日の間隔で、右から左、肌里から右へ、

国境？ を超えて通過するから、不思議な顔をしていた。

イタリア側のマッターホルンを見たくて、

何度も、往復通過するとは、思っても、いなかっただろう。

スイス側の、ツェルマットに、少し長く滞在したことがある。
全体像が見えてきた。これまでも、夏も、冬も、訪ねている。
かなり、土地勘もできている。
景観を見るのも、作品を残すのも、冬がいい。
少しだけ、スキーができる。パスポートを、持っていれば、越境もできる。

冬場は、風雪で、リフトやケーブルが、休業。動かないことも多い。
目前まで、来ているのだが、先に進めない。標高がある。最後の一つが難所。
風速 50 メートルにもなる。そこまでの経験はないが、
進むことすら、立ってもいられない、そんな経験に遭遇した。
今回は、1 週間近く、チャンスを待った。

最後のゴンドラが、動かない。風雪のため、運転休止がつづいた。
スキーを楽しんだり、周遊したり、チャンスを狙った。
他では、そんな選択はしない。マッターホルンは、特別。狂気に近いかも・・・
園井時、そんな心境だった。

これだけの気力で、ビジネスをやっていたら、もっと、成功しただろう。
それほどまでに、熱中していた。
何が、そうさせたのか、わからない。やる気、充滿。
三日目だった。快晴になった。嵐のあと、のような状況。
紺碧に、スカイブルー、ラッキー、スマイル、オン、ミー、かも、
もしかしたら・・・ 期待してしまった。神様お願い！

乗り継いで、上に上がらないことには、わからない。
乗務員に聞いても、不確かな返答。
スイス側のマッターホルン、女性的とは、言わないが、
イタリア側から見た、マッターホルン、
鋭角の、頂き、断崖絶壁、実に、男性的。
スイス側のマッターホルンも素敵だが、イタリア側の
威風堂々のマッターホルン、大好きになった。

目を閉じると、出会いまでの経緯が、思い出される。
風を感じ、風の冷たさ、美味しかった空気、澄んだにおい。
心の中まで、現れるように感じた。雪を口に含んだ。
口に中に、広がる、心地よさ、なんともいえない味、爽やか。
耳にかすかな風の声。豪風も忘れない。

欲には、際限がない。日本国内ではない。はるか遠い、ヨーロッパ大陸。
実体験できた。一定の思いを遂げた。
機会があれば、今一度、マッターホルンや、スイスアルプスへ。
エーデルワイズや、花々の中を、散策してみたい。
こんなに夢中にさせた、マッターホルン、なぜだろう。
そんな追求は、野暮というもの。
マッターホルン様、素敵な、心の財産、ありがとう。
今も、元気と、勇気を、いただいています。